

ふるさとの 植物を守ろう

No. 12 November 2013

植物園と市民で進める
植物多様性保全ニュース

Japan Association of Botanical Gardens
公益社団法人日本植物園協会

近畿地方の絶滅危惧植物の特性調査

摂南大学薬学部附属薬用植物園 邑田 裕子

近畿地方に分布し、植物の実態についてあまりよくわかっていないコウヤシロカネソウ、コウヤハンショウヅルの自生地の確認、植物の特性について調査を行った。また湿地の植物であるイトテンツキ、ゴマクサについての調査も行った。現在まで摂南大学薬学部附属薬用植物園と協同で、絶滅危惧植物の現地調査を行って来た近畿植物同好会、北河内自然愛好会のメンバーと一緒に調査した。

1) コウヤシロカネソウ（キンポウゲ科）は紀伊半島、四国に分布が知られているが、紀伊半島の自生地はごく限られた場所で、今回調査した場所は奈良県で唯一の自生地。現地はクモキリソウ、シャガなどが生育し、周辺にはウツギ、コガクウツギ、マルバウツギ、コアジサイ、ササユリ、ヤマゴボウ、ハルノタムラソウなどが生育する杉林床で、開花・結実が認められた。現在の生育地は交通の便が良くなく、比較的目立たない植物なので守られているが、工事などの人為的な改変や山崩れなどが起きるとすぐに存在が危ういと思われる。また情報収集を行ったところ、三重県、和歌山県にも各一箇所あるが、個体数は非常に少ないということである。

2) コウヤハンショウヅル（キンポウゲ科）は和歌山県、奈良県、三重県、徳島県に生育しているが、どの場所でも生育個体数は非常に少ない。今回調査した和歌山

県の産地では周辺にノリウツギ、ミツバウツギ、シロモジ、カジカエデ、クマノミズキ、ヤマジオウ、ハシリドコロ、キツリフネ、マルバフユイチゴ、ウバユリ、クリンソウなどが生育していた。タカネハンショウヅルも生育しているので、間違えやすい。

3) イトテンツキ（カヤツリグサ科）とゴマクサ（ハマウツボ科/APG III・ゴマノハグサ科）は滋賀県と三重県の県境に近い奥深い山中の池の堤防斜面に生えていた。近くには信楽焼きの陶土を採集する場所があり、土壌は粘土質で、堤防には背の高い植物は育たず、イトハナビテンツキ、アイナエ、モウセンゴケ、ホザキノミミカキグサ、カリマタガヤ、ヒナノカンザシ、ヒメオトギリ、カナビキソウなどの背の低いものが多く、大きくてもセンブリ、イトイヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲ、ホソバリンドウ、ノイバラ程度であり、ゴマクサもその中では大きい方だった。現在は人もあまり近寄らない、地元の人にしかわからないような場所だった。池の周囲にはやはり湿地を好むオオウラジロノキが多く、たくさんの実をつけていた。



コウヤシロカネソウ



ゴマクサ

報告

目からウロコが落ちたかな?! ~県立博物館・美術館で「生物多様性展」行いました!••

沖縄県立博物館・美術館 山崎 仁也

平成 24 年 4 月、私は博物館に赴任早々、大きな展示会を翌年に控えた自分の立場を知って愕然としました。博物館主催の特別展のテーマは「生物多様性」と決まっていたのですが、内容についてはほぼ白紙状態で、一切を任せられたのです。何から手を付けて良いやらまったく五里霧中。まずは副館長に紹介されて、元 R 大学の H 先生に教を請いました。「平成 25 年にやる生物多様性展なのだから、生物多様性が叫ばれ初めた数年前とは違い、一步踏み込んだ生物多様性を紹介できたらいいね。」…むむむなるほど…一步進んだ話か…。ところが、です。周りの学芸員に聞いてみると、「生物多様性」って何? という反応がほとんどなのです。人文系担当で、生物のせの字も興味無しかと見まごう御仁もちらほら…。ややや!, 知識人でさえ「生物多様性」を知らないぞ。だったらまずは「生物多様性」という言葉を知ってもらうことから始めなければ!

タイトルはわかりやすく「目からウロコの大生き物展」としました。夏休み開催ということもあり、とにかく沖縄の将来を担う子どもたちをターゲットに、わかりやすい展示を心がけよう、印象に残るようなインパクトを与えよう、「生物多様性」という語を覚えてもらおうと、手を変え品を変え、さまざまな展示を試みました。



実物大のクジラの絵を描いて飾ったり…。



剥製を直に触ったり…。また、大きな段ボールの昆虫に囲まれて迷路を進んだり…。



7 月 12 日～9 月 1 日の会期で、のべ 32,110 名が、この展示会を見に来てくれました。来場者数だけを見れば、まずまず満足のできる結果でしたが、本当の意味での成果は、これを見てくれた子どもたちが大きくなった 20 年後、30 年後にならないとわかりません。その頃の沖縄の生物多様性がどう変化しているのか、楽しみでもあり、不安でもあります。

さて、この展示会は県内・外で関連の移動展を行います。9 月は海洋博公園内の熱帯ドリームセンターで、10 月 25 日からは沖縄市の郷土博物館で、平成 26 年 1 月 25 日からはうるま市海の文化資料館で観られますので、今回見逃した方も、もう一度みたい方も、ぜひ足を運んでみてください。そして 3 月からは兵庫県の姫路科学館でも沖縄の生きものたちが紹介されます。他県でも展示されるということは、それだけ沖縄の生き物が興味を引くということなのです。

これらの展示会を通じて、沖縄に住んでいると感じなくなってしまうけれど、沖縄の自然環境は生物多様性に富んだ宝の山・宝の海であるということ、そして、その世界的にも貴重な宝を守る主体は、そこに住む沖縄県民にあるということ、考えるきっかけにしてくれたら、望外の喜びです。

お知らせ

東北津波被災地の保全に関する集会のお知らせ

植物多様性保全委員会 遊川 知久

東日本大震災の津波により東北地方の植生に大きな改変が起きました。さらにその後の復興工事などのため、希少植物の多くの自生地が失われようとしています。津波被災地の植物相に起こっている問題を集約し、今後の環境改変や植生遷移にともなう生物多様性の変化を予測した上で、植物園として実行することを明確にする必要があります。これらの課題を議論するとともに、被災地での植物の保全に関する要望を伺う集まりを、東北大植物園で2月下旬に開催します。

各園の紹介

旭川市北邦野草園について

旭川市北邦野草園 堀江 健二

旭川市一带は、地質学上の神居古潭帯の標式地として知られています。神居古潭帯は、北海道の中央部を南北に貫き、これに沿ってほぼ連続的に蛇紋岩が分布しています。

蛇紋岩地はカリウム、カルシウムが少ない貧栄養土壌です。一方、過剰に摂取すると有害なマグネシウム、ニッケルが多く含まれています。その上、アルカリ性傾向となっており、植物の生育には適さない地域です。このような蛇紋岩地には、特殊な環境に適応、分化（進化）した蛇紋岩植物や固有植物などが生育しています。更に、地史的な影響を受けた高山植物や絶滅危惧植物も多く、特異な植物相、植生となっています。

当園の周辺にも蛇紋岩地がありますので、このような貴重な植物の保護・保全を考え拠点園としての調査研究テーマを「蛇紋岩地の植物」として、証拠標本の

蓄積にも努めております。また、園内にこの特色ある優れた地域の植物を身近に観察していただけるように「蛇紋岩地植物コーナー」を設けたり、蛇紋岩地で自作のハンドブックを使用した観察会を開催し好評を得ております。



蛇紋岩地植物コーナー

ふるさとの植物を守ろう



絶滅危惧植物
Threatened Species

植物SOSマークの訴え



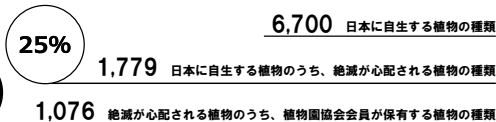
編集・発行：公益社団法人日本植物園協会

〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201

TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453

URL: <http://syokubutsuen-kyokai.jp/>

E-mail: seed@syokubutsuen-kyokai.jp



植物園協会の社会貢献活動の一例です。

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作しました